

# 手探り！！かみこあに木育

米代東部森林管理署上小阿仁支署 業務グループ 森林整備官 平川彩夏

## 1. はじめに

### (1) 背景

木育は、平成18年に閣議決定された森林・林業基本計画の中で「市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ、『木育』とも言うべき木材利用に関する教育活動」と明記されました。その10年後、平成28年の森林・林業基本計画でもその積極的な推進が謳われ、全国各地で様々な取り組みが進められてきました。

東北森林管理局においても幼稚園・保育園を対象に木育を実施し、園児が木と親しむ機会を提供してきましたが、当支署管内では木育に特化した活動は行えていなかったため、管内にある上小阿仁村立かみこあに保育園（以下、保育園という。）に打診し、木育を実施することにしました。

### (2) 目的

本取り組みでは、木育を通して園児に木とふれあう機会を提供するとともに、その成果や課題を把握し、今後の活動について検討していくことを目的としました。

## 2. 取り組みの経過

### (1) 木育の実施

当支署では、保育園で2回の木育に取り組みました。

#### ① 1回目（平成30年2月15日実施）

1回目の木育では、園児41名を対象に森と木材の繋がりを知るための寸劇と木材の良さを体感するための木のおもちゃ遊びを実施しました。秋田県水と緑のマスコット「森っち」が登場する寸劇で森からの贈り物（綺麗な水や木材等）について学んだ後（写真1）、木のおもちゃで自由に遊んでもらいました

（写真2）。おもちゃは木材本来の色味を感じられるものを用意し、口に入りきる大きさのものは避けました。

木育後、保育園に対して実施したアンケートでは、「色々な種類のおもちゃがあったことで1歳児から5歳児まで楽しめた」、「積み木の量や広げ方に配慮が必要」との意見が出されました。積み木の量や広げ方について検証したところ、今回は初めての木育だったため、図1及び写真3のように広範囲に



写真1 寸劇「森がくれるもの」



写真2 積み木で遊ぶ園児

大量の積み木を広げており、おもちゃ間を移動する際に園児が積み木につまずいて転倒する可能性があるという安全上の課題が確認できました。

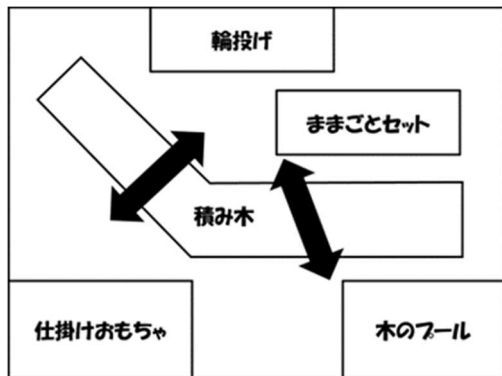


図1 1回目のおもちゃ配置



写真3 1回目の積み木の広げ方

②2回目（平成30年7月7日実施）

2回目の木育は、保育園側から「保護者の研修会で木育を実施してほしい」という要望があったことから、園児とその保護者を対象に紙芝居（写真4）と木のおもちゃ遊び（写真5）を実施しました。紙芝居の内容は、主人公が妖精と一緒に冒険しながら森について学ぶというもので、元々小学生対象のものでしたが、保育園職員に協力してもらい園児用に分かりやすく言い換える等の工夫をしました。木のおもちゃ遊びでは、前回と同様のものを用意したところ、一度遊んだ事がある園児達が保護者に遊び方を教えながら、親子で楽しく木とふれあっていました。



写真4 紙芝居「森はみんなのたからもの」



写真5 木のプールで遊ぶ園児

前回の木育のアンケートで「積み木の量や広げ方に配慮が必要」という意見があったことから、今回は保育園職員に相談しながらおもちゃを図2のように配置し、園児の動線を確保することで安全に移動できるよう工夫しました。

木育後、参加した保育園職員10名と保護者15名にアンケートを実施しました。

保育園職員からは「あらためて木のおもちゃの良さに気づけた」、「2回目なので戸惑うことなくおもちゃを設置できた」、「紙芝居の時間が長く、子どもは集中して見るのが難しかった」という意見が出されました。

保護者からは「木とふれあう機会がないので今後も機会を作ってほしい」、「村の施

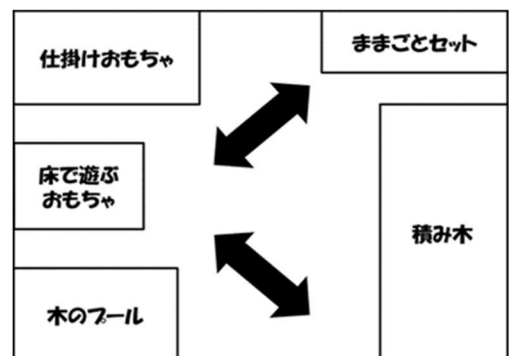


図2 2回目のおもちゃ配置

設に木のおもちゃを設置してほしい」、「親子で木のおもちゃに夢中になり、後日購入した」という声があった一方で、「紙芝居の時、周囲のざわつきが気になった」、「紙芝居の内容が少し難しかった」という意見もありました。

また、園児からは「楽しかった」、「もっとたくさん遊びたかった」、「森っちに会いたかった」という感想がありました。

#### (2) 署内検討会の開催

2回の木育後、アンケート結果等をもとに支署職員で「支署の木育」について検討する場を設けました(写真6)。「木育とは何か」、「木育の検証」、「今後の活動」の3つのテーマについて自由に意見を出し合いました。

「木育とは何か」というテーマでは、支署職員それぞれの木育に対する認識や考えが出されました。

「木育の検証」では、2回の木育活動を振り返りつつ、成果や課題を出し合い、実施にあたりそれぞれが感じたことを共有しました。

「今後の活動」については、内容に関する意見や、安全性の確保・関係団体との協力といった今後検討が必要なことが挙げられました。

木育に参加した支署職員全員でこのような議論を行うことにより、それぞれが当事者意識を持つことができ、「支署として木育を進めて行く」ということを確認することができました。

#### (3) 保育園へのヒアリング実施

支署と保育園の木育に対する意見等を共有するために、保育園職員へのヒアリングを実施しました(写真7)。直接話を聞くことで、木育後の園児の様子や成果・課題などアンケートだけでは得られなかった多くの情報を得ることができました。

木育後の園児の様子については、2回の木育で大きな変化はなく、「園児への影響はすぐに出るものではない」ということを痛感するとともに、継続の重要性を感じました。

また、保育園が今後取り組んでみたいこととして木工や植樹、村の施設への木のおもちゃの設置等がありましたが、人材や費用等の面で支署と保育園だけでは実現が難しく、今後の活動には地域の協力が不可欠であるということも分かりました。

#### (4) 木育ワークショップ(以下、WSという。)の開催

保育園へのヒアリング実施後、今後の活動に不可欠な地域の協力を得るために、関係者が一堂に会して上小阿仁村の木育について考える場が必要だと考え、2回のWSを開催しました。

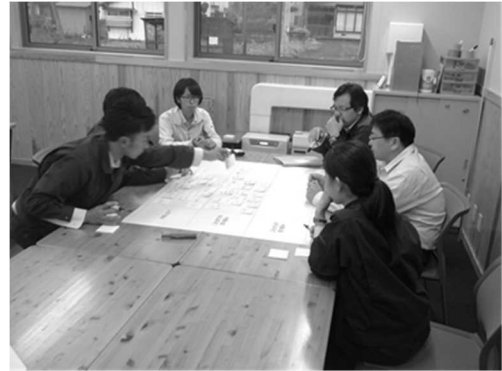


写真6 署内検討会



写真7 保育園へのヒアリング

①第1回（平成30年12月18日開催）

第1回WSは、秋田県北秋田地域振興局（以下、振興局という。）、上小阿仁村（以下、村という。）、保育園に参加を呼びかけ、当支署を含めた4者で今後の上小阿仁村の木育について意見交換をしました（写真8）。

最初に、これまでの経緯や活動の経過を共有した後、各自が今後やってみたいことを挙げていきました。その中で、「紙やトイレトペーパー等の身近な題材での木育実施」、「木工や種まきのような木のおもちゃ遊び以外のプログラムの実施」、「村の施設への木のおもちゃの設置」、「木育のプロの話を知りたい」等の意見が出ました。

その後、やってみたいことの実現に向けメンバー各々ができることを挙げていきました。木育の実施や準備等、実働的な部分は全員で取り組むこととして、それ以外をまとめると図3のようになりました。一例を挙げると保育園については、安全面や木育の内容等に対する保育のプロとしてのアドバイスや日頃からの園児・保護者への働きかけなどが挙げられました。



写真8 第1回WS



図3 WSメンバーができること

このように、第1回WSでは、互いに単独では得られなかった驚くほど多くの情報を共有することができ、関係者が一堂に会することで一種の勢いがつき、第2回は具体的な活動の計画を立てることにしました。また、今回のメンバーでは足りない木材に関する技術面や材料調達等の役割を補うために、大館北秋田森林組合もメンバーに加えてはとの意見も出されました。

②第2回（平成31年1月18日開催）

第2回WSでは新たに大館北秋田森林組合（以下、森林組合という。）をメンバーに加え、今後の活動についてさらに具体的な議論を進めました。

その中で、保護者アンケートで「木とふれあう機会を作って欲しい」という声があったことや、メンバーの中で「木育活動の時だけでなく日頃から木とふれあえるようにしたい」という思いがあったことから、平成31年6月に親子で木のおもちゃを作る「木工体験」を実施することが決定しました。木工体験でおもちゃを作り持ち帰っ

て遊んでもらうことで、創作を楽しむだけでなく、日頃から木とふれあうきっかけになると考えられます。また、木工キットの作成や当日の講師を地元の方に依頼し、材料は地域の木材を使用することができたら理想的だとの意見も出されました（写真9）。



写真9 第2回WS

### 3. 取り組みの成果・課題

#### (1) 成果

今回の取り組みの成果として、以下の4つが挙げられました。

- ①園児に木とふれあう機会を提供できた
- ②保育園職員や保護者の木育に対する関心が高まった
- ③今まではなかった保育園との繋がりができた
- ④地域を巻き込んだWSを立ち上げられた

3番目に挙げた保育園との繋がりの1例として、保育園で実施された他団体主催のイベント「森の教室」に支署職員も呼んでいただき、プロの森林環境教育を実際に見て学ぶ貴重な機会をいただきました。

#### (2) 課題

今回の取り組みの課題として、以下の3つが挙げられました。

- ①内容に関する課題（園児に合ったプログラムの長さや難易度の検討等）
- ②アンケートに関する課題（アンケート項目の検討等）
- ③継続に関する課題（メンバーに異動があった際の対応の検討等）

内容とアンケートに関する課題は今後の活動を通じて解決していきますが、そのためにも、活動の「継続」が重要となります。メンバーの多くは異動を伴う職場なので、それぞれが確実に次の担当者に引き継ぐと共に、新しい担当者がメンバーに加わった際には、他のメンバーが経緯や進行状況を共有することでこの課題を解決していきます。

### 4. 今後の取り組み

今後は、今回把握した課題を解決しながら6月の木工体験を実施し、WSで検証や改善を行いながら必要に応じて新たな人材を巻き込み、次の木育の実現に繋げていきます。具体的には、植樹のようなフィールドでの活動や紙を題材にした木育等を検討していきます。そして将来的に、この活動を通じた幼児期の木とのふれあいが、小中学校で実施している森林教室や林業体験の土台となり、上小阿仁村で育った子ども達が「木への愛着をもった大人」になることを祈りつつ、この活動を継続していきます。

### 謝辞

木のおもちゃの貸出し等でご協力をいただいた、秋田県農林水産部森林整備課、あきた森づくり活動サポートセンター、公益社団法人秋田県緑化推進委員会の皆様にご心より感謝申し上げます。